

池田と落語の絆を深めた2つの大名跡



初代 春團治
昭和9年(1934年)没

大正から昭和初期にかけて関西の演芸会に君臨した爆笑王。破天荒な私生活は後世、歌や芝居にもなる



二代目 春團治
昭和28年(1953年)没

初代の芸風を受け継ぎ、戦後上方落語復興の時代に一人気を吐いた本格派落語家。三代目桂春團治の実父



三代目 春團治

滅亡に瀕していた上方落語を継承し、復活させた四天王の一人。華麗で緻密な高座は、いまや上方落語だけでなく、落語界全体の至宝



初代 花團治
昭和17年(1942年)没

初代春團治の弟弟子にあたる。「三枚起請」、「立ち切れ」等のお茶屋噺を得意とし、吉本の看板として大変な人気を集めた



二代目 花團治
昭和20年(1945年)没

吉本興行部のバラエティー座「喜劇民謡座」の俳優としても活躍。襲名後わずか1年で亡くなり、詳しい資料も残っていない



二代目 桂春蝶
平成5年(1993年)没

人柄と良識を映す話術、虎ファンぶり、テレビ・ラジオの人気者になる一方、人間味あふれる実力派として落語ファンの心をつかんだ

Photo by KIYOSHI GOTO



受楽寺「春團治之碑」

平成10年(1998年)、三代目春團治が紫綬褒章受章を機に、初代・二代目への御恩報謝の心を形に表したいとのことから「春團治之碑」の建立を發意。この話を聞いた後援者と門弟は、かねてより三代目春團治と親交のあった受楽寺(池田市豊島南)住職に相談。住職は境内地を提供すると快く応じ、「春團治之碑」建立に至った。



桂蝶六改メ 三代目 花團治

昭和37年(1962年)豊中市生まれ。大阪府立桜塚高校の落語研究部に入り、大阪芸術大学を経て、1982年に二代目桂春蝶の高座に一目惚れして入門。現在は落語家としての公演の傍ら、大阪青山大学客員教授、放送芸術学院専門学校、府立桃谷高等学校夜間部非常勤講師、講演会などで活躍



三代目 桂春蝶 花團治

人気落語家であった曾祖父、初代花團治の存在を知ったひ孫さんが「残したい」と望んだ名前。襲名からわずか一年で空襲に遭った二代目の早世により断たれていた名跡は、70年眠ったままだった。縁があって桂春團治一門に襲名の申し出があり、白羽の矢が立ったのが桂蝶六さん。その後、繁昌亭の高座を見たひ孫さんは直感で桂蝶六さんに名前を継いでもらうことを決めた。70年の時を経て、名跡がここ池田で復活する。

巻頭特集 蝶六改メ、三代目桂花團治さんに聞く

池田と落語

至る所で目にする「落語のまち池田」という言葉。商店街には落語にちなんだ特別メニューが並び、春には祭り、そして落語会まである。さらには、今年の「第16回 いけだ春團治まつり」の一環として開催される「いけだ落語ういーく」の千秋楽で「三代目花團治襲名披露公演」が開かれるという。なぜこんなにも池田が落語一色なのか。襲名披露公演の地として池田を選んだ落語家、桂蝶六さんに池田と落語の縁、そして落語の魅力について語ってもらった。

information

■「第16回 いけだ春團治まつり」
下記落語会のほか、豊島野公園では4月25日・26日の2日間、特設舞台でのイベントや、石橋商店街サンロードでは26日のみ、地元商店街の屋台や一門のステージが楽しめる

■「第3回 いけだ落語ういーく」
「いけだ春團治まつり」の一環として2年前からスタートした、7日連続の落語会「落語ういーく」。初日からの5日間は落語作家の小佐田定雄氏、芸能史研究家の前田憲司氏によるプロデュース。千秋楽には桂文枝、桂ざこぼも登場

1日目 4月20日(月)
「今宵は映像ばなしで」

2日目 4月21日(火)
「今宵はお茶屋ばなしで」

3日目 4月22日(水)
「今宵はやるまいぞやるまいぞ」

4日目 4月23日(木)
「今宵は先…代さんと」

5日目 4月24日(金)
「今宵はお酒ばなしで」

6日目 4月25日(土)
「蝶六フィーチャー」

7日目 4月26日(日)
「蝶六改メ 三代目 桂花團治襲名披露」

【料金】1〜6日目:各3,500円、7日目:4,000円
【問い合わせ】072-761-8811(池田市民文化会館) 詳細はP20へ

「北へ行くといえれば池田」
題名に残る、親しまれた地

池田が登場する話として知られる「池田の猪買い」、「池田の牛ほめ」。タイトルに具体的な地名が、しかも2つもの話に入っているのは珍しいことだといえる。いずれも主人公が池田へ向かう話だ。「交通の要衝として栄えていた池田には、昔から馴染みがあったんじゃないかな。大阪市内を舞台にしたときに、ちよっと遠出で一番に池田が思いつく。落語が栄えた時代に、池田が存在感のある街で、一つのブランドだったんじゃないかな」と桂蝶六さん。大阪の中心部から少し離れた山手の地として、池田の風景、距離感、話を聴く人々の頭にイメージしやすかったのだろう。それほど上方の中で有名なまちだったのだ。

「春團治之碑」建立を機に
深まる池田と落語

そんな池田と落語との縁を更に濃くしたのが、「春團治之碑」建立だ。先代の二代目春團治と交流のあった受楽寺に碑が建ったのを機に、開催されるようになった「いけだ春團治まつり」は今年で16年目を迎える。春團治一門が落語を披露したり、大喜利をしたりとイベントを盛り上げ、地元住民との交流にもなっている。そして、市立としては日本で初めて上方落語の資料を常設展示する「落語みゆーじあむ」は平成

と、桂蝶六さんは語る。

池田の景色と穏やかな気風は、落語が親しまれる土壌

落語がこんなにも街に受け入れられたのも、池田の気風があつてのことだろう。「落語の笑って優しいんです。怒らないですよ、アホに對して。しゃべらないって。それが池田ののんびりした雰囲気と合うんじゃないかな」。インタビュー当日、商店街を歩いていたら偶然目にした、落し物を拾い店に届けるおばあさんとそのお店の人のやりとりが何とも微笑ましかつたのだという。人と人との関わり方も、落語の魅力の一つで、その、優しさ、が池田に住む人々の気風と重なったのだ。重なるのは人柄だけではない。「風景も、ちょっと街を歩いたら古い家屋も見かけますね。落語のイメージがしやすいんじゃないかなと思うんですよ。家の作りにしてもね、上がり框(がま)ち」言うたつて何か分かんないけど、池田に住んでいたら馴染みのないも

高校の落研時代から池田の老人ホームで落語を披露したり、池田に友人も多いという桂蝶六さん。70年ぶりの襲名という一世一代の大舞台、応援に行きたい。

「池田の牛ほめ」

毎日遊び歩いている男、甚兵衛さんが小遣い稼ぎのアイデアを伝授する。池田の伯父さんが家を改装したので、それを褒めに行つたらいいというのだ。甚兵衛さんは、褒め言葉とともに、小遣いをもつための知恵も授けた。その翌日、教えたもつた養子、池田の伯父さんの屋敷にやってくる。トシヤカンの養子、言葉と並べ立て、目論み通り小遣い、をせしめるが…

池田の猪買い

冬のある日、喜六は、町内のご隠居の甚兵衛さんの家を訪れる。体が冷えて困ると訴える喜六に、甚兵衛さんは冷えずに猪の肉を勧める。大阪の街中で売っている古い肉では効き目がないと、池田へ行き、山狼師の六太夫さんという名人の撃た新鮮な肉を分けてもらうよう教えた。翌日、大阪を脱した喜六はあちこちで道を尋ねながら池田へ辿り着き、六太夫を訪ねる。「新鮮な、猪の肉」を求めて。

池田の牛ほめ

横に忍ばせたカンニングペーパーを覗きこむシーン